

日本経済新聞

7月24日
火曜日

発行所 日本経済新聞社
東京本社 ☎(03)3270-0251
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
大阪本社 ☎(06)6943-7111
名古屋支社 ☎(052)243-3311
西部支社 ☎(092)473-3300
札幌支社 ☎(011)281-3211

挑戦する企業



シャープ全額出資子会社の、シャープ新潟電子工業（新潟市、岡崎淳社長）がOEM（相手先ブランドによる生産）を強化している。2012年2月から直管型発光ダイオード（LED）照明の製造を始めたほか、7月からは蓄電池に内蔵する電源の生産も開始した。主力品目はテレビの電源だが、テレビの販売不振で既存事業の厳しさが増す中、「黒子経営」で生き残りの道を模索している。

シャープ新潟電子工業

直管型LED照明を成長分野と位置付け、収益の底上げを狙う



LED照明をOEM黒子に活路

光景だ。「月15万本生産で」とか生き残っていかうと、品質の高さが強みだ。新しい事業として目を付け、岡崎社長は自信を見せた。それが直管型LED照明だ。

岡崎社長は昨年10月、シャープから子会社社長に就任した。液晶テレビの低迷で、主力の電源の生産は落ち込む一方。「新潟でも何

今年2月から量産を開始。課題は販路開拓だった。地元のLED照明ベンチャーのルクス・エナジーなどに設置して電気をためておく、非常時に電源として活用する。電力不足の懸念がある関西圏などでの需要を見込んでおり、成長分野と位置付けた。

これまで全売上高の7割を占めていた液晶テレビ関連事業は、今年度中に1、2割ほどに落ち込む見通し。それでもLED照明や蓄電池など新規事業が補い従業員の雇用は維持できるという。

新潟県内では、妙高市のパナソニックや小千谷市の三洋半導体製造の工場が、地元の大手電機が生産拠点は雇用の受け皿として大きな役割を果たしているが、全国で同様の動きがある。収益構造を大きく変え、黒子経営にかじを切ったシャープ新潟電子工業の今後に注目が集まりそうだ。

（杜師康佑）

新潟

新潟支局 0255-2222-1754
長岡支局 02558-37110040